未来に誇れる石岡市を築く



戸井田 和之（といた かずゆき）
石岡市長インタビュー

まちづくりのビジョン

2026年6月21日に執行されました石岡市長選挙におきまして、多くの市民の皆様、そして各方面の皆様からご支援とご信任をいただき、市政運営を担わせていただくことになりました。市民の皆様から託された、期待と責任を胸に、全身全霊で市政運営に取り組んでまいります。

石岡市は、「歴史・文化・祭り・自然・商工業・農業」が一体となった、魅力あるまちですが、最大の課題である人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化、子育て・教育への支援、地域医療の充実、さらに厳しい財政状況等、取り組むべき課題は数多くあります。本市が抱える様々な問題や課題に、真正面から向き合い、「市民の皆様が安心して暮らせる石岡市」「子どもたちが希望を持てる石岡市」「未来に誇れる石岡市」を築いていくため、「今を見て、未来を創る！」の決意で、市政運営に取り組んでまいります。

市議会と緊密なコミュニケーション

市政運営には、市議会と執行部が緊密に連携を図り、十分な情報共有を行っていくことが重要であり、そのためには、市議会議員の皆様と緊密なコミュニケーションを行っていくことが必要であると考えております。

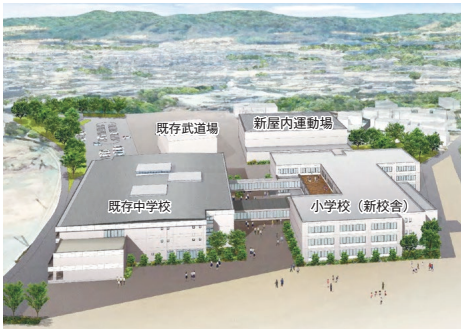
庁議等において、議会と緊密な情報共有をするよう職員と再度の確認をおこない、私自身も議員の皆様と意見交換を積極的に行っているところです。

市民生活を支える公共事業

◆小学校整備事業（府中小・八郷地区統合小）

本市では、「石岡市立小中学校統合再編計画」を策定し、小中学校の統合を進めております。24年度に北小学校と統合した府中小学校は、築年数50年を超える校舎があるなど老朽化が進んでいることから、子どもたちのよりよい教育環境の整備のため、新たな校舎建設を進めております。既存の学校施設の利用制限を最小限にするため、仮設校舎を必要としない工事計画で進めていく予定です。

また、将来の児童数の推移などを踏まえ、八郷地区における8校を、八郷中学校との施設隣接型小中一貫校として統合することで、教育課程や環境の連続性を持たせながら教育環境や学校施設の充実を図り、明日また行きたいと思うような学校にしたいと考えております。



八郷地区統合小学校の完成イメージ

◆総合保健センター（仮称）整備事業

市内には石岡地区、八郷地区それぞれに保健センターがありますが、いずれの施設も老朽化対策が必要な状況となっています。特に石岡保健センターはバリアフリー非対応となっている状況であるため、両保健センターを統合、新設することで、市民がより利用しやすい施設となるよう整備を進めてまいります。

新たな施設は大砂地区のふれあいの里石岡に隣接した場所に建設する予定で、現在、敷地の造成及び建築に関する設計業務を実施しております。

施設の構造・規模はS造平屋建て、建築面積は2400㎡程度を予定しており、新たな施設は健康診断、健康相談等を行う保健センター機能および、子育て相談、発達支援指導等を行うこども家庭センター機能を有し、それぞれの機能の充実を図ることで、市民の健康と子育て両面のサポート体制のさらなる強化を目指してまいります。

ふれあいの里石岡ひまわりの館は、開館から25年以上が経過しており、施設設備が老朽化していることから、施設の長寿命化を図るため、中規模修繕工事を検討する時期に来ています。

隣接地に新たに総合保健センター（仮称）が建設されることに伴い、子どもから高齢者まで幅広い市民の健康づくりの拠点となる施設機能の充実を図ってまいります。

◆都市計画および道路整備の見直し

これからのまちづくりはこれまで整備してきた都市基盤を有効に活用しながら、人口減少や高齢化、土地の利用変化など社会情勢に対応した都市構造へ見直していくことが重要と考えています。

本市の都市計画は、都市計画マスタープランや立地適正化計画等の上位計画に基づき、人口減少、少子高齢化が進展する中でも持続可能な「コンパクト・プラス・ネットワーク」型のまちづくりを目指す方針で進めております。

立地適正化計画については、24年3月に改定を行い、計画に位置付けた事業に取り組むことで、計画の実現にむけ努めております。

都市計画につきましては、昨年度に実施した都市計画基礎調査の結果や社会情勢の変化等を注視しながら、適宜、都市計画マスタープランや立地適正化計画の見直しを行い、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

道路ネットワーク整備については、地域間の連携や適切通学、防災など市民生活を支える必要な機能を見極め、市全体を一つのネットワークと捉え、交通需要を見据えた整備を進めていきたいと考えております。用途地域の再構築については、現在の土地利用や将来の人口動態など都市基盤との整合性を踏まえ、必要に応じて見直していくことが重要であると考えております。

市道事業の抜本的見直しについては、各道路事業の必要性や緊急性、将来の維持管理費を検証し、優先順位を明確にします。必要な事業は着実に進め、効果が限定的であったり、必要性が低下した事業は、計画縮小や事業時期の見直し、場合によっては中止も含めて検討していきたいと考えております。

◆複合文化施設（市民ホール）整備事業の見直し

複合文化施設の整備にあたっては、これまでの計画や検討経過、事業費、維持管理費、将来の財政負担などについて改めて精査し、市民ニーズに加え、建設費、維持管理費、利用見込み、財政状況、既存施設との重複、将来の人口動態などを総合的に検討し、市として最も最適な方向性を判断してまいります。

これまでの計画をいったん立ち止まって検証し、財政面も含めてゼロベースで考え直し、将来にわたって持続可能な施設とは何なのか、財政的な持続可能性をしっかりと見極めた上で、石岡市にとって本当に必要な施設のあり方を判断してまいります。

DX等の取り組み推進

週休2日制は21年4月より開始し、25年4月より発注者希望型と受注者希望型を組み合わせ、対象案件を拡大しました。

また、建設業者の皆さまの要望が多かった電子契約を25年10月より、ASP（工事情報共有システム）を25年7月より導入しました。

今後も石岡市は建設業協会の皆さまとともにDX推進等の取り組みを進めていきたいと考えております。

よりよい石岡市をともにつくる

建設業者の皆様は、公共施設やインフラの維持管理、都市基盤の整備など、安全安心なまちづくりをともに進めていく非常に重要な社会基盤整備の担い手です。関係する多くの人々にとって建設業者がより活力に満ち、魅力的になることが持続可能性にもつながっていくと考えております。

また、自然災害が増加する中で、公共工事における地域の守り手育成事業や災害協定で、災害時の迅速な対応はとても頼りにさせていただいています。まさしく地域の守り手です。

これまでの建設業者の石岡市への貢献に感謝し、よりよい石岡市をつくるためともに頑張っていきたいと考えております。



プロフィール

石岡市議会議員を経て、03年に県議会議員に当選。県議会第118代副議長などを務め、6月の市長選挙で市長に就任した。

好きなものは地元の石岡市、お祭り・お蕎麦・石岡でとれた美味しい農産物。尊敬する人は父と母、ご先祖様。愛する人は妻。

石岡の守り手として、安心で魅力あるまちづくりを

一般社団法人 茨城県建設業協会土浦支部石岡分会

分会長　松永英信（㈱松永工務店）

副分会長　岡崎二朗（㈱岡崎土建）　副分会長　大和田久進（東亜興業㈱）

理事　長谷川敏久（㈱長谷川工務店）　理事　白田二朗（白田組土木㈱）　理事　路川雅博（㈲路川工務店）

監事　篠崎正和（篠崎建設㈱）　監事　櫻本兼三（㈱兼祐）　顧問　飯村一夫（㈲イイムラ）

㈱アレスコ　㈱キンダイ　㈱紺野工務店　㈱鈴木工務店　白田組土木㈱　双葉建装㈱
㈲イイムラ　九島産業㈱　堺建設㈱　㈲竹林組　白田建設㈲　平成建設㈱
市村土建㈱　㈱兼祐　㈱三企工業　千代田建設㈱　㈱長谷川工務店　㈱松永工務店
㈱大場工務店　㈱孝建　篠崎建設㈱　㈲塚田埋設工事　㈱日高建材　㈲路川工務店
㈱岡崎土建　興民建設㈱　㈲シンケン　東亜興業㈱　㈱広伝　㈱菱伸工営
㈱木村工務店　小桜建設㈱　㈱進貢　中沢機工㈱　福井建設㈱